

Suzuki Method 才能教育 NO169 春 2009 号を読む

弾ける曲がたくさんある喜び

- リム スズキの子は、今まで習った曲を何曲も弾けるけれど、それまでの先生ではいつも一曲しか弾けないのです。
- ワンプナー 私もずっと以前の話ですが、リサイタルで弾いた曲を、一週間後には忘れていました。
- アチソン スズキでは音が取れて、一通り弾けるようになると「これからが勉強」と教えますね。
- 全員 もちろんです。立派な音にしましょう、という次なる段階ですね。
- リム 習っている時は音を追うだけで曲になっていないでしょう。「弾けるようになった曲を上手にする」ことに常に努めています。
- アチソン ですからそれと並行して、親の教育というものもありますね。先になかなか進まなかったり、前に戻ったりしますから。レッスンを始める前に、まず最初にそういうことを親にきちんと説明しないといけないですね。
- ヴォロヴ 新しい曲、次の指導教習に行きたいと思うのは自然なことですから、指導者はそれをよくわかって絶えず教育しないと。でも、親も聞いているうちに音色が変わっていくのがわかってくるようです。
- リム 鈴木先生は研究生に「キラキラ星」を弾かせて「あなたのは1巻のキラキラ星」「あなたのは5巻のキラキラ星」と言われましたね。
- リー よく言われました。
- ワンプナー 以前、10巻まで行った生徒がいたのですが、演奏していても体が全く動かないのです。昔、そういう子に「お地蔵さんみたいに動かない」と鈴木先生はおっしゃっていましたが、確かに音楽的に聞こえないのです。それで2巻からまたやり直し、表現することを重点に学ばせたら、自然と動けるように、心から表現できるようになりました。私は指導者として反省しましたが、確かに鈴木先生は、やさしい曲を使って能力を伸ばすようにおっしゃいましたね。

- 2009年6月11日林明夫記 -